

自分の思いをもち、友達を意識して表現できる児童の育成

— 視覚支援による学習の振り返りの工夫を通して —

特別研修員 特別支援教育 遠藤麻希子(特別支援学校教諭)

【児童の実態】

休み時間にはクラスの友達と一緒に遊ぶ姿があるが、気持ちを表現するのは難しい。授業では、友達の取組を意識しながら学習を進める姿が見えにくい。

【教師の願い】

授業中も友達と関わりながら活動してほしい。自由に自分の気持ちを表出したり、友達に伝えたりしながら学習してほしい。

つかむ

追究する

授業の
ねらいに
迫る活動

動画を用
いた交流
活動

まとめの
活動
(視聴後
の2回目
の活動)

振り返り

視覚支援による学習の振り返りの工夫

【授業実践】国語科 小学部第1学年「まねしてみよう」(「こくご☆」文科省著)



「ねらいに迫る活動の様子」
(まねをして一緒に跳ぶ)

ねらい:動きや言葉のまねをする活動を通して、一緒に取り組みたい気持ちや友達に対する思いなどを自分なりの方法で表現できるようにする。

【手立て1】

授業の展開時における動画視聴の活用

- ・ねらいに迫る活動後、直前の活動の動画を視聴する。
- ・動画視聴を通して、友達の活動の様子に気付く。



OOくん!

「友達の活動や学習に着目している様子」

【手立て2】静止画と教具の組み合わせによる視点の提示

- ・吹き出しや表情カードを使って、言葉、表情、動き、に着目し、気付いたことを表現する。

OO君のジャンプの様子はどうですか。

何と言っていましたか?



ぴょん(と言っていましたよ)。

友達の言葉への気付き

OOちゃんのかお(わらっているね)。

友達の表情への気付き

「友達の言葉や動きに着目して表現する様子」

びょん
(もっと高く跳んでみよう)。

「視聴後の活動の様子」



えいっ(友達のまねをして飛びたいな)。

友達の動きを模倣・参考に



いっしょにやろう(って誘えたよ)。

友達へ自分の気持ちを表す

【目指す児童像】 自分の思いをもち、友達を意識して表現できる児童

【成果】

- 展開時に動画視聴を取り入れた交流活動を行うことで、友達の言葉や動きに着目したり、意識したりすることができた。
- 動画と教具を組み合わせることで、より友達の表情や言葉に意識を向けたり、教具を用いて思いを表現したりすることができた。
- 動画視聴で気付いた活動を踏まえて、2回目の活動では、友達と一緒に動いたり友達に声を掛けたりするなど、主題に迫る姿が見られた。

【課題】

- 自分の思いをもってそれらを表現するに当たり、意図的な動きや言葉を引き出すためには、児童が自然に動くような必然性のある学習内容をより一層精選していく必要がある。
- 児童なりの表現を見取ることができたが、それらが友達を意識できていたと評価するには十分ではなく、検討していく必要がある。今後は、友達をより意識できるように、友達とのやりとりや友達に伝えることに関する手立てを取り入れていきたい。